

問1	明治政府が1871年に「廃藩置県」を実施した最大の目的として、最も適切な説明を選びなさい。 （2018年 鹿児島県公立入試 類似）			
	1. 欧米列強に対抗できる近代的な軍隊をつくるため、一般の国民に兵役の義務を課するため	2. 天皇に土地と人民を返還させ、旧藩主をそのまま知事に任命して地方自治を維持するため	3. 中央政府が地方を直接統治する体制を整え、強力な中央集権国家を確立するため	4. 身分制度を打破し、農民に土地の所有権を認めることで国家の税収を安定させるため
問2	明治初期の政府内では、日本との正式な国交を拒んでいた朝鮮に対し、武力を用いてでも開国を迫るべきだとする主張が生まれました。この主張を何といえますか。 （2017年 千葉県公立入試 類似）			
	1. 征韓論	2. 地租改正	3. 尊王攘夷	4. 文明開化
問3	明治政府は、欧米の進んだ技術や学問を導入して日本の近代化を急ぐため、国家予算の多くを割いて高い給与で外国人を招きました。近代産業の育成や教育、文化の発展に大きく貢献したこれらの人々の総称として、最も適切なものはどれですか。 （2024年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. お雇い外国人	2. 南蛮人	3. 遣隋使	4. 渡来人
問4	徳川慶喜が政権を朝廷に返上した「大政奉還」から、天皇を中心とする新政府の樹立を宣言した「王政復古の大号令」に至るまでの時期、徳川慶喜が抱いていた政治的な構想とその結末について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 （2024年 宮崎県公立入試 類似）			
	1. 天皇に対して將軍職の継続を強く求め、朝廷内に徳川家を支持する勢力を増やすことで、倒幕派の動きを完全に沈静化させた。	2. 政権を返上しても、有力大名による会議の議長として実質的な主導権を維持できると考えていたが、倒幕派による武力背景の宣言により排除された。	3. 政権返上と同時に全ての領地と軍隊を放棄し、薩摩藩や長州藩と協力して平和的な近代国家の建設を最優先に進めた。	4. 武家諸法度を強化することで諸大名の離反を防ぎ、朝廷と幕府が合体した公武合体による長期政権を確立させた。
問5	明治政府が、税の基準を「収穫量」から「地価」へ、納入方法を「米」から「現金」へと変更した最大の理由は何ですか。 （2024年 京都府公立入試 類似）			
	1. 農民の負担を江戸時代よりも大幅に減らすことで、新政府への支持を集めるため	2. 廃藩置県によって職を失った武士たちに、新しい土地を効率よく配分するため	3. 全国各地で発生していた、屯田兵による土地の奪い合いを解決するため	4. 天候による豊凶に左右されることなく、毎年の国家財政の収入を安定させるため
問6	明治維新の過程で、明治新政府は強力な中央集権体制を確立するため、それまでの地方支配の仕組みを根本から変える改革を行いました。この改革において、藩を廃止して新たに府や県を置き、中央政府から府知事や県令を派遣して全国を直接統治することとした政策の名称を選びなさい。 （2024年 北海道公立入試 類似）			
	1. 地租改正	2. 廃藩置県	3. 版籍奉還	4. 徴兵令
問7	明治時代、福沢諭吉は著書『学問のすゝめ』の中で、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という有名な一節を記しました。福沢がこの言葉を通じて、当時の国民に最も伝えたい考え方はどのようなものですか。 （2017年 大分県公立入試 類似）			
	1. 江戸時代から続く伝統的な儒教の道徳を重んじ、目上の人を敬うことで社会の秩序を保つべきであるという考え。	2. 封建的な身分制度を批判し、人間は本来平等であり、自立するためには実学を学ぶことが重要であるという考え。	3. フランスのルソーの思想を日本に紹介し、国民の主権を確立するために自由民権運動を推進すべきであるという考え。	4. 欧米諸国に対抗するために、天皇を中心とした強力な軍事国家を築き、攘夷を断行すべきであるという考え。
問8	19世紀後半、徳川慶喜が政権を返上した後の政治状況を説明した記録において、倒幕派が「王政復古の大号令」を強行した背景にある目的として、最も適切なものはどれですか。 （2024年 香川県公立入試 類似）			
	1. 徳川氏の影響力を完全に排除し、旧幕府勢力が参加できない形で天皇中心の新政府を樹立するため	2. 全国の武士が持つ特権を奪い、四民平等の社会を実現して国民皆兵の基盤を作るため	3. 藩閥政治を批判する自由民権運動を抑え込み、天皇に絶対的な権限を持たせる憲法を制定するため	4. 欧米列強との不平等条約を改正するため、近代的な法典を整備していることを諸外国に示すため
問9	明治維新时期、新政府が中央集権体制を確立するために実施した一連の改革について、古いものから順に並べた際に、3番目にあたる出来事を選択してください。 （2018年 福島県公立入試 類似）			
	1. 土地の所有者に地券を交付し、地価の3%を現金で納めさせた地租改正	2. 江戸幕府の廃止と天皇中心の政治への復帰を宣言した王政復古の大号令	3. 藩を廃止して県を置き、中央政府から府知事や県令を派遣した廃藩置県	4. 全国の藩主から土地と人民を天皇に返還させた版籍奉還
問10	1871年に欧米諸国へ派遣された岩倉使節団の主な目的として、最も適切な説明はどれか。 （2019年 滋賀県公立入試 類似）			
	1. 廃藩置県の実施に際して、欧米諸国から政治的な承認と財政的な支援を取り付けること	2. 幕末に結ばれた不平等条約の改正交渉を行い、あわせて欧米の先進的な制度や産業を視察すること	3. キリスト教の信仰を全国で解禁することを条件に、関税自主権の完全な回復を合意すること	4. 国内で頻発していた士族の反乱を抑えるため、欧米の最新兵器の導入と軍隊の派遣を要請すること
問11	明治初期、新政府は近代国家への転換を目指して四民平等の政策を進めましたが、これによりそれまでの特権を奪われた士族（旧武士）の不満が高まりました。政府が士族に対して行った、身分上の特権や経済的特権を廃止した政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。 （2026年 栃木県公立入試 類似）			
	1. 帯刀禁止と家禄の廃止	2. 徴兵令の廃止と地租の軽減	3. 廃藩置県の撤回と苗字の禁止	4. 版籍奉還の拒否と藩札の流通
問12	明治維新後の教育制度の整備に関して、岩倉使節団に同行した女子留学生の一人である津田梅子の活動について述べた文として、最も適切なものを次のの中から選びなさい。 （2020年 愛媛県公立入試 類似）			
	1. 日露戦争の際に「君死にたまふことなかれ」という詩を発表し、反戦を訴えた。	2. 『たけくらべ』などの小説を執筆し、日本近代文学における女性作家の先駆けとなった。	3. 女性の地位向上のために雑誌『青鞜』を発刊し、平塚らいてうらと運動を進めた。	4. 英語教育を通じて女性の自立を促すため、私立の女子英学塾を設立した。
問13	明治政府が、殖産興業の初期段階において、特に製糸や紡績といった軽工業の工場を優先して建設した理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2026年 群馬県公立入試 類似）			
	1. 生糸などの製品を輸出することで、近代化に必要な外貨を獲得しようとしたから	2. 農村の余った労働力をすべて都市の工場に集め、農業を廃止しようとしたから	3. 鉄道や軍艦を自ら製造するために、鉄鋼の生産量を増やす必要があったから	4. 外国との貿易を制限し、すべての工業製品を国内だけで自給自足するため

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中央政府が地方を直接統治する体制を整え、強力な中央集権国家を確立するため	1869年の版籍奉還では旧藩主が知藩事に任命されたため、藩の独立性が依然として残っていました。そこで政府は1871年に藩そのものを廃止し、中央から知事を派遣する廃藩置県を断行しました。これにより、政府の命令が全国に届く中央集権化が達成され、近代国家としての基盤が固まりました。
問2	答え 1 征韓論	明治初期、新政府の内部では朝鮮への対応を巡る議論が活発化しました。西郷隆盛や板垣退助らは、武力行使を辞さない構えで開国を求める「征韓論」を主張しましたが、岩倉使節団として欧米を視察し、内政の充実が急務であると痛感した大久保利通らと激しく対立することとなりました。
問3	答え 1 お雇い外国人	明治政府は「富国強兵」や「殖産興業」をスローガンに掲げ、急速な近代化を図るために欧米から優れた技術者や学者を招きました。彼らは官営模範工場の運営指導、鉄道建設、大学での教育、さらには法令の整備など、多岐にわたる分野で指導的な役割を果たし、日本の発展の基礎を築きました。
問4	答え 2 政権を返上しても、有力大名による会議の議長として実質的な主導権を維持できると考えていたが、倒幕派による武力背景の宣言により排除された。	徳川慶喜は大政奉還を行っても、当時の朝廷には政権を運営する能力がないため、結局は有力大名による連合政権（公議政体）が作られ、そのトップとして自分が君臨し続けられると計算していました。しかし、徳川家を排除した新政府の樹立を目指す薩摩・長州ら倒幕派は、クーデターによって王政復古の大号令を断行し、慶喜の政治参加を拒む体制を強引に作り上げました。この権力争いが、のちの戊辰戦争へとつながる要因となりました。
問5	答え 4 天候による豊凶に左右されることなく、毎年の国家財政の収入を安定させるため	明治政府が富国強兵や殖産興業といった近代化政策を進めるためには、巨額の資金が必要でした。しかし、米による納税では豊作や凶作によって毎年の税収が激しく変動し、計画的な予算編成が困難でした。地価を基準とした金納化（現金で納めること）を徹底することで、政府は農作物の出来不出来に関わらず、毎年決まった額の税収を確実に確保できるようになりました。
問6	答え 2 廃藩置県	明治新政府は、1869年の版籍奉還で土地と人民の支配権を形式的に天皇へ返させましたが、旧藩主がそのまま知藩事として残ったため、中央集権化が不十分でした。そこで1871年、藩を完全に廃止して中央政府が任命した官吏（府知事・県令）を派遣する廃藩置県を断行し、全国を直接支配する体制を整えました。地租改正は租税制度の改革、徴兵令は軍事制度の改革を指します。
問7	答え 2 封建的な身分制度を批判し、人間は本来平等であり、自立するためには実学を学ぶことが重要であるという考え。	福沢諭吉は、明治初期を代表する思想家であり、文明開化をリードしました。『西洋事情』では、それまでの生まれによる身分差を否定し、個人が独立して生きるためには、日常生活に役立つ「実学（じつがく）」を修めることが不可欠であると説きました。選択肢にある「ルソーの思想」は中江兆民、「天皇中心の軍事国家（攘夷）」は幕末の志士などに関連する内容であり、福沢の主張とは異なります。
問8	答え 1 徳川氏の影響力を完全に排除し、旧幕府勢力が参加できない形で天皇中心の新政府を樹立するため	大政奉還後、徳川慶喜は依然として強力な勢力を維持しており、新政府においても諸侯会議の議長のような立場で実権を握ろうとしていました。若倉具視や西郷隆盛ら倒幕派は、武力行使も辞さない構えでこの宣言を出し、幕府の廃止と慶喜の辞官納地（官職を辞し、領地を返上すること）を決定しました。これは、旧幕府側の政治参加を拒み、完全に新しい権力構造を作るためのクーデター的な側面を持っていました。
問9	答え 3 藩を廃止して県を置き、中央政府から府知事や県令を派遣した廃藩置県	明治新政府はまず、1867年に「王政復古の大号令」を発して新政府の成立を宣言しました。その後、1869年に「版籍奉還」によって名目上で土地と人民を天皇へ返させましたが、旧藩主が引き続き地方統治を行っていたため、1871年に「廃藩置県」を断行して中央集権化を決定づけました。最後に、国家財政の基盤を固めるために1873年から「地租改正」が始まりました。
問10	答え 2 幕末に結ばれた不平等条約の改正交渉を行い、あわせて欧米の先進的な制度や産業を視察すること	明治政府は、欧米列強との対等な関係を築くために不平等条約の改正を急いでいました。岩倉使節団はその予備交渉を行うとともに、日本の国力を充実させるために欧米の政治、経済、教育などの進んだ仕組みを直接学ぶことを重要な任務としていました。この視察で得た知見は、帰国後の日本の近代化政策に大きく反映されました。
問11	答え 1 帯刀禁止と家禄の廃止	明治政府は、江戸時代まで武士が持っていた特権を順次廃止しました。1876年には廃刀令によって帯刀禁止（サーベル着用の警察官・軍人以外）が命じられ、さらに家禄（政府から支給されていた給与）を廃止する秩禄処分が断行されました。これにより士族は精神的な誇りと経済的な基盤を同時に失うこととなりました。
問12	答え 4 英語教育を通じて女性の自立を促すため、私立の女子英学塾を設立した。	津田梅子はアメリカ留学で得た知識や経験を活かし、当時の日本では遅れていた女子の専門教育に尽力しました。特に英語教育を重視したのは、女性が国際的な視野を持ち、社会で自立することを目指したためです。他の選択肢にある雑誌『青鞜』は平塚らいてう、反戦詩は与謝野晶子、近代文学は樋口一葉の業績であり、時代背景や活動分野が異なります。
問13	答え 1 生糸などの製品を輸出することで、近代化に必要な外貨を獲得しようとしたから	明治初期の日本において、生糸は最大の輸出商品であり、貴重な外貨（外国のお金）を稼ぐ手段でした。政府は質の高い生糸を大量に生産して輸出を増やすことで、得られた外貨を軍備の増強や重工業の機械購入といったさらなる近代化の資金に充てようと考えました。そのため、まずは製糸や紡績といった軽工業から近代化が進められました。